

年度達成目標の達成について

1. 各種法改正等に対応し、より良いサービス向上と経営安定を目指す

①各種法改正等には適切な対応ができた。特に西岡病院さんと提携して、機能訓練について新たな加算を取得し、利用者からも好評でサービス向上に寄与できた。

②経営の安定という面では厳しい状況が続き、当法人独自で行ってきた業績賞与支給を廃止、処遇改善手当の支給計算方法の見直し、居宅事業所の人員体制の変更等を行った。他にはケアハウス外壁工事入札、特養の食事委託業者の変更、経費削減。保育園職員駐車場の確保に関するサポート等を行った。

2. 「働き方改革」に資する業務見直し・改善を実行する。

①各事業所において働き方に対する変化対応が見られた。具体的には職員アンケート実施とそれに基づく業務改善、「ユースエール」基準の年休取得達成、業務効率を上げる為の様々な工夫等が見られた。

②相変わらず人材確保では苦戦が続いている。次年度で申請する「ユースエール」認定が少しでも求人環境改善に繋がればと考える。

法人本部事務部門達成目標

1. 各種変更に対応した事務処理を確実に実行する。

①作業の相互・最終チェックの再構築。

→最終チェックに関しては意識的に強化したが、職員間情報共有がスムーズにっていない部分見られ、相互チェックについては課題を残した。

②各事業所長との綿密な打ち合わせの実行。

→必要な事項について各事業所長との意思疎通の上で事務処理できている。

2. 各事業所での「ユースエール」目標達成の為のサポートを行う。

①労働法に関する情報提供を行う。

→一部で労働法改正に関する情報提供及び必要なアドバイスできた

②各種データの把握と適時、法人全体の情報共有を行う。

→年休消化に関するデータを集計して毎月提供し、各事業所における管理意識が向上した。年休5日取得の法改正前に全体の意識が向上したことはタイミング的にも良かった。

法人本部用務部達成目標

1. 労働災害防止活動を行う。

①職員相互の体調・安全管理に気を配る活動を行う。

→職員間での相互コミュニケーションに基づく配慮向上を目標としたが、うまく機能せず、職種変更者がでた。

②腰痛対策を実行する。

→腰痛防止・作業をするスマートスーツを購入支給し腰痛防止には努めたが、使用されなかったり、体調不良者が出て結果が伴わなかった。

2. 各事業所の経営コスト削減に貢献する活動を行う

①各事業所の経営コストの削減及び利便性の向上に繋がる活動を行う

→業者への依頼が減少したことでコスト削減や細かい各事業所からの依頼に応じて利便性向上に貢献できている。

②各種修繕で自前で行うことを増やす。

→各事業所長の依頼で各種修繕を自前で行っている。但し、依頼が多く手が回らない部分が出てきていて、今後調整が必要と考える。

業務実績

平成30年6月	6日	監事監査	場所	本部会議室
		理事員会		
	6月23日	評議員会	場所	ホテルライフオート札幌
	7月1日	広報誌「ほほえみの丘」第35号発行		
	7月28日	第25回ふれあい祭	場所	ケアハウス駐車場等
	9月13日	監事監査	場所	各本部・自宅
	9月19日	役員会	場所	本部会議室
	12月4・10日	監事監査	場所	各自宅
	12月12日	役員会	場所	本部会議室
平成31年1月	1日	広報誌「ほほえみの丘」第36号発行		
	1月12日	法人合同新年会	場所	センチュリーロイヤルホテル
	3月8日	監事監査		
	3月13日	理事会	場所	本部会議室
	3月23日	評議員会	場所	本部会議室

- I 定期的に行うもの 本部会議（毎月第一木曜日及び随時）
 法人本部事務部門 打合せ（毎日及び随時）
 法人本部用務部門 打合せ（毎日及び随時）
 安全・衛生委員会（毎月1回）
- II 不定期に行うもの ①広報・ホームページ部会 年2回発行
 ②福利厚生部会
 ③ふれあい祭実行委員会
- III 研 修 ①新入職員研修 1回
 ②3、4年目・幹部研修 2回、
 ③地域住民向け開放講座 1回
 ⑤外部研修参加 2名
- IV 職員状況 事務3名
 用務2名
- V その他
 ＊職員メンタルヘルスチェック
 ＊安否確認サービスの運用開始（メール訓練の実施）
 ＊災害対応マニュアル作成・周知

＜ 理事会・評議員会の主な議決事項 ＞

理事会

- ①前年度事業・決算報告 平成30年6月6日 理事会 承認
 第1次補正予算案 給与規定の一部変更 ケアハウス外壁工事入札
 理事会 議決
- ②ケアハウス外壁工事入札結果 平成30年9月22日 理事会 承認
- ③給与規定の一部変更 平成30年12月21日 理事会 議決
- ④第1・2次補正予算案 平成30年12月21日 理事会 議決
- ⑤平成31年度事業計画・予算案 平成31年3月24日 理事会 議決
- ⑥平成30年度第2・3次補正予算案 平成31年3月24日 理事会 議決

評議員会

- ①前年度事業・決算報告 平成30年6月16日 評議員会 議決
- ②補正予算案 平成31年3月24日 評議員会 議決
- ③次年度事業計画・予算案 平成31年3月24日 評議員会 議決

平成30年度

西岡高台保育園事業報告書

西岡高台保育園

平成30年度の入所児童数

4月は、130名定員のところ、132名でスタートしました。
年間の月の平均入所児童数は、136名となりました。

1. 西岡高台保育園 基本方針

1. 恵まれた自然環境を通して豊かな心と身体が育つ保育を目指す。
2. 1人ひとりが自己を充分発揮でき、その表情が輝く保育を目指す。
3. 統合ケアを通じて優しさや思いやりが自然に表現できる保育を目指す。

2. 平成30年度 西岡高台保育園 年間達成目標

- ① 部門ごとの打合せを定期的に行う 報・連・相強化 (2年目)
(0歳、1歳、りす・うさぎ組以上・給食・管理職等)
- ② 地域ニーズに応じた活動の継続 (2年目)
(普段の保育を披露し交流を楽しむ)
- ③ 業務の見直しを行い、改善を図る (園全体としての取り組み)
(行事の取り組み方・カリキュラムの事務書式等の見直し)

3. 平成30年度 部門別年度達成目標

1) 保育部門(乳児)(幼児)

- ① 打ち合わせ・会議等で、建設的な意見を提案することが出来る
- ② 普段の保育を披露し交流を楽しむ

2) 給食部門

- ① 打ち合わせ・会議等で、建設的な意見を提案することが出来る
- ② 食の安全面と食育活動の発信
(食に関する広報活動)

年間達成目標

- ① 各部門定期的に打ち合わせを実施することが出来ており、目標は達成することが出来ている。報連相の強化というところでは、報告が出来ている部門と確認されてから報告する部門もあったため反省点となった。再度、全体に記録・報連相の大切さを徹底し、より円滑に保育運営ができるよう強化していきたい。
- ② 各施設内での定期交流会、散歩の途中での交流、法人中庭で遊んでいる姿等を利用者に観ていただき交流することが出来、地域においては、児童会館・小学校との交流も園児たちは、楽しむ事ができた。法人内でのサポート西岡のリングプル、ペットボトル集めにも保護者の協力を得ながら、少しであるが貢献出来ていたため、今後も協力していきたい。
- ③ 行事及び、カリキュラム書式見直し、パソコン入替、年5日以上の子休みの取得を行い、業務軽減の見直しと職員のリフレッシュ対策を行うことが出来た。今後も職員の声を大切にし見聞めながら、業務軽減対策に努めていきたい。

保育部門(乳児)(幼児)

① 打ち合わせ、会議、園内研修等、各自が意見・提案し話を進めることが出来ていた。特に保育所保育指針の園内研修では、各自勉強してからの研修であったので、若い職員が積極的に発言していることを評価したい。職員による職場アンケートで意見・要望が紙面に書かれている事が、少しでも声に出してもらえよう職場の環境作りを大切にしていきたい。

② 法人施設利用者、小学校、児童会館の児童との交流等楽しく交流することが出来た。サポート西岡の地域貢献では、ペットボトルキャップ・リングブルの回収活動の協力を行う事が出来て良かった。ごみを拾う清掃活動も行っているので、来年度は、園付近を年長クラスの子ども達と挑戦出来ればと思う。

給食部門

今年度は、アレルギー児に対しての給食室からの提供・クラス内での誤食があったので、引き続き各クラスの連携と、給食室内での事前確認、当日調理の声掛けを多くするなど協力体制の強化を図っていく。箸指導では、箸ノートを作り、給食打ち合わせの時に給食職員間で共通認識が取れている確認がとれ良かった。年長はクッキング活動を楽しむことが出来た。

衛生 (伝染性疾患) ()内は昨年的人数

溶連菌感染症 58名(17名)	ヘルパンギーナ 3名(5名)	リンゴ病 30名(0名)	ウイルス性胃腸炎 13名(26名)
プール熱 0名(0名)	風しん 0名(0名)	水痘 0名(1名)	RSウイルス感染症 10名(8名)
インフルエンザA 78名(5名)	インフルエンザB 0名(39名)	流行性結膜炎 3名(0名)	突発性発疹 8名(9名)
流行性耳下腺炎 1名(1名)	手足口病 43名(13名)	アデノウイルス 4名(2名)	マイコプラズマ肺炎 1名(1名)

障がい児保育

4歳児クラス男児1名自閉症スペクトラム(中度)と2歳児クラス男児が平成30年5月29日に自閉症スペクトラム(軽度)と認定を受ける。2名共に札幌市の巡回指導年2回、また、2名とも保護者の希望で送迎付き児童発達支援放課後等サービス支援等を利用。4歳クラス男児は、父の転勤で2月28日付けで退園。障がい児保育児童は、1名となる。

一時保育事業

(非定型→労働、職業訓練、就学等・緊急→災害、事故、出産、看護、介護、冠婚葬祭等)

4時間以内の延べ利用児童数は非定型0名、緊急5名計5名。4時間を越える延べ利用児童数は非定型3名、緊急217名計220名となる。利用理由としては、親の疾病や育児等であった。

短時間保育利用状況

(1ヶ月に就労時間64時間以上120時間未満、育児休暇、求職活動、疾病、障害等が対象)

今年度は、4月に7家庭が利用。就労、育児休暇、求職活動等の理由での利用状況であった。結果、育休利用終了、就職の決定、就労時間延長のため短時間保育から標準保育への移行があり、3月時点で、短時間保育利用家庭は9家庭となった。

平成30年度行事実施報告書

月 日	行事内容	月 日	行事内容
4月20日	パフォーマー ジャグリングクロ	10月3日	小遠足(札幌ドーム、水源池)
5月1日	林業試験場桜見会(うさぎ、くま、きりん組)	10月5日	きりん組バス遠足(ぶどう狩り、円山動物園)
5月7日～5月31日	個人懇談会	10月19日	食育・子育て講習会(保護者対象)
5月16日	種芋植え	10月24日	交通安全教室
5月29日	小遠足(高台公園、水源池)	11月9日	お店屋さんごっこ
5月30日	サッカー教室	12月15日	クリスマス会
6月13日	親子遠足(ファンタジーキッズリゾート)	1月9日	餅つき大会
6月15日	お祭りごっこ	1月17日	人形劇えりっこ公演
6月30日	交通安全教室	2月1日	節分
6月29日	保護者講習会(年齢にあった遊具の選び方)	2月5日	雪祭り見学(きりん組)
7月7日～7月8日	年長組お泊り会	2月8日	クラス懇談会(くま・きりん)
7月11日	すいか割り大会	2月15日	クラス懇談会(あひる・りす・うさぎ)
7月28日	ふれあい祭り	3月8日	お別れ会食会
8月20日	藍染	3月17日	第40回卒園式
9月12日	収穫祭	3月19日	入園説明会
9月15日	第40回運動会	3月20日	進級式
9月28日	観劇 劇団風の子	3月22日	中学入学お祝い会

1 その他実施した行事

誕生会・避難訓練(年間12回)、歯科健診(1回)、園医健診(年間乳児12回・幼児2回)

2 統合ケア(法人施設・町内緑友会・地域老人施設)

<グリーンライフ光陽>

緑見会(雨天のためケアハウス内にて交流)・お祭りごっこ・お食事交流・歌発表

<みどりの丘>

お祭りごっこ・歌発表

<リハビリディサービスふあいと>

お祭りごっこ・歌発表

3 会議及び研修

職員会議(12回)・乳児打ち合わせ(13回)・幼児打ち合わせ(13回)各行事の打ち合わせ(6回)
年間カリキュラム(1回)・市外研修(0回)・市内研修(17回)・園内研修(4回)・法人研修(1回)

4 専門機関連携

札幌市障がい児保育巡回指導(7月・3月計2回)

幼保小連絡会(3回)

5 幼・小・中・高校・大学交流

西岡南小学校(学習発表会観覧、1・5年生交流)・西岡北中学職業体験・真駒内中職業体験・
西岡高台児童会館交流・経専北海道保育専門学校ボランティア

6 小学校・児童会館へ卒園児の引継ぎ

西岡南小学校・西岡高台児童会館

7 実習生受け入れ校

日本医療大学看護学科・光塩学園女子短期大学・経専北海道保育専門学校・
拓殖大学北海道短期大学・藤女子大学

8 職員健診・接種

一般健診(1回)・腰痛検査(全職員2回)・インフルエンザ接種(1回)

9 胆振東部地震開園状況

9月6日(木) 8名(7:00-17:20)、9月7・8日(金・土)両日 9名(7:00-17:00)

平成30年度 入所児童数・年齢別児童数

(上段 標準保育人数 下段 短時間保育人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
0歳	11	11	13	13	13	14	14	14	14	14	14	15	171	14
	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0		
1歳	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	216	18
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
2歳	20	20	20	21	21	21	21	20	20	20	20	20	281	23
	2	2	2	3	3	3	3	4	4	4	4	3		
3歳	21	22	22	22	25	25	25	25	24	24	23	22	305	26
	4	2	2	2	1	1	1	1	2	2	3	4		
4歳	27	27	27	26	26	26	26	26	25	25	25	24	335	28
	1	1	1	2	2	2	2	2	3	3	3	3		
5歳	27	27	27	27	27	27	27	27	26	26	26	26	324	27
	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1		
合計	132	131	133	135	137	138	138	138	138	138	138	136	1,632	136

平成30年度 時間外保育利用延べ回数

(回)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
0歳	2	8	21	52	24	22	25	39	30	23	35	31	312	26
1歳	59	70	90	66	77	67	95	85	88	78	80	97	952	79
2歳	36	38	27	41	53	35	53	52	41	37	52	50	515	43
3歳	100	93	82	81	69	71	96	96	92	90	98	107	1,075	90
4歳	99	111	130	129	116	96	169	154	141	119	144	132	1,540	128
5歳	34	47	75	62	67	33	66	54	64	44	64	71	681	57
合計	330	367	425	431	406	324	504	480	456	391	473	488	5,075	423
内) 認可外児	7	1	2	1	1	3	1	1	1	1	4	0	23	2
短時間	1	5	7	25	11	8	22	12	11	24	37	9	172	14

平成30年度事業報告

ケアハウス グリーンライフ光陽

特定施設入居者生活介護グリーンライフ光陽

I.平成30年度達成目標の結果(反省)

1.個別支援を常に念頭におき、入居者個々の自己実現の為に支援する姿勢を持つ

①個別支援計画書の充実(その人らしさのプラン)とケアプランの基に、入居者主体の支援を実践する

反省⇒ケアプラン・個別支援計画書の元実践できた

②29年度に引き続き地域を意識した活動を取り入れる

反省⇒地域統合での交通安全呼びかけやレクの地域に向けた雑巾寄贈(入居者)また、お祭りでは多くの地域の子どもたちが参加して入居者との交流をし、いい取り組みができた

2.「働き方改革」に資する業務見直し・改善を実行する(法人目標)

①業務の無駄をなくし、効率的に時間を使うための改善を実行する

反省⇒業務の見直しを皆で考えたが、改善までには至らなかった

②職員が活発に意見を出し合う会議を目指すとともに職員個々の業務を自身で把握・見直し、数値化・文書化して目標にする

反省⇒チャレンジカードに数値化・文書化して個々の職員が取り組むことができたが、一般入居者への支援は業務の質に対して、職員間で温度差があり、改善できたとは言えない

II.月別入居者状況

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
男性	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10	11	11	126	
女性	38	38	39	39	40	40	40	40	40	40	39	39	472	
合計	49	49	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	598	
一般入居者	18	18	22	20	21	23	19	17	17	16	18	16	225	
特定入居者	31	31	28	30	29	27	31	33	33	34	32	34	373	
要介護認定者	41	41	42	42	42	42	43	43	43	43	43	43	508	
内 訳	要支援1	8	8	8	8	8	9	10	10	10	10	10	109	
	要支援2	5	4	5	5	6	6	5	5	5	6	5	63	
	介護度1	15	16	16	16	16	16	16	16	16	17	18	194	
	介護度2	10	10	10	10	9	8	9	10	10	10	9	9	114
	介護度3	2	2	2	2	3	3	1	1	1	1	0	0	18
	介護度4	1	1	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1	10
	自立	8	8	8	8	8	8	7	7	7	7	7	7	90
入居者		2			1	1	3				1	1	9	
退去者	1			1	1	3				1	1		8	
入院者数	0	2	2	2	2	0	1	2	0	1	1	3	16	

III.外出・外泊・面会者状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
面会者	125	135	127	116	110	110	118	102	142	142	127	154	1508	125.7
外泊者	4	2	3	2	2	2	2	3	5	1	1	1	28	2.3
外出者	12	12	9	7	9	12	8	11	12	8	7	10	117	9.8

IV. 各部門報告

1. 介護支援報告

①充実した個別支援計画・ケアプランを基に支援を行う

- a 入居者に関する情報の共有を職員間で充実させる
 - b 地域とのつながりを意識した支援を心掛ける
- 反省⇒個別支援の対応は行えた
入居者の変化に柔軟に対応し支援した
ケアグロスを取り入れ情報の共有がしやすくなった
施設行事において地域交流は行えた
ケース会議を通してケアプランを基に支援が行えた

②業務において自己実現ができる(入居者・職員ともに)環境作りを目指す

- a 時間の有効活用を心がけ、訪室機会を設け支援に活かす
 - b 研修などにおいて学んだことを支援や業務に活かす
- 反省⇒一般入居者への訪室など、特定の入居者に比べなかなか時間が取れなかった
検討事項を事前に挙げ、会議をより効果的にできればよかった
研修で学んだ事を報告し、業務に反映させた
時間の有効活用を意識した

2. 健康管理支援報告

①入居者の疾患を把握し、体調管理に努める、また近隣のかかりつけ医と連携を密にとる

- 反省⇒特定入居者は個々の体調管理の把握がおおむねできた
一般入居者は、把握できないことがあった。高齢に伴い、自ら受診状況が把握できなく
今後の課題となる
かかりつけ医との連携は取れていた

②研修に参加して、他職種へ発信し、業務に生かす。また職員間の連携をとり、会議などで意見交換をしていく

- 反省⇒感染予防の研修は業務に活かした。
その他の研修は、施設での看護職員の在り方についてのグループワークが中心だったため
具体的な日常業務への反映は出来なかった。
職員会議で、他職種との意見交換はできた。

③感染予防防止に努める(感染予防委員会)

- a 外部・入居者へに啓蒙活動の実施や、うがい・手洗いの励行を実施していく
 - b 入居者参加型の感染予防委員会を2か月に1度開催し、意識付けいただけるようにする
 - c 近隣の医療機関との連携を密にして、感染情報を収集し、職員・入居者に発信していく
- 反省⇒感染予防の啓蒙は、ポスター掲示外来者の声掛けができた
入居者の感染委員会参加は認識不足の方もいたので、意識付けられよかった
インフルエンザの発症が1/28～2/5まであった
入居者は、擬陽性者も含め22名、職員は3名の発症があった。(保健所への報告)
施設内消毒や発症者居室配膳・体調変化の把握などに配慮したが、感染に至った
全員居室配膳を実施してからの感染拡大はなく、効果的だと思われ、今後活かしたい
高齢に伴う、病識・理解力の低下により、発症者の活動が予想外だったことを再確認し
今後の感染予防対策に活かしていきたい

3. 相談支援報告

①個別支援の充実を目指し、入居者主体を意識した支援を行う

反省⇒職員向け研修「個人情報保護について」と、入居者向け研修「特定施設入居者生活介護について」を実施した。入居者から積極的な質問もあり、また企画したい

②職員間の連携を意識し、計画的な支援が行えるようになる

反省⇒入退去の件数が例年より多かったが、相談員間の調整や他職員からの助言を聞きながら連携して取り組むことができた

家族トラブル、金銭管理の相談は中川が担当した。吉田相談員はこれまでの経験とこの1年で入居者との関わりで築き上げたスキルをもって来年度に生かしたい

4. 食事支援報告

①入居者個々が充実した生活を送れるよう食事を通して支援する

a.食事提供

反省⇒厨房職員の入れ替わりが多く、提供にも影響する部分があった。また、味付けに対しても入居者より今までより味が濃いなどの意見があった。

通常業務に慣れることを優先して、難易度の高い献立を立てなかったため、問題はなかった

b.個別対応

反省⇒ケース会議に合わせて栄養スクリーニングを行い、栄養状態のは把握に努めた

摂取量の少ない方制限が必要な方に対しては、細目に職員間の話し合い個別対応を行った

5.機能訓練支援

○レクリエーション

①参加することが楽しみに感じられるような、入居者主体のレクリエーションを企画・実施する

a.個々にあったレクリエーション

反省⇒事前にアンケートを取り、入居者の意見を反映したレク内容を考えた

身体状況に合わせながら、脳トレやゲーム、運動をした

調理レクは講評で、参加人数が多かった

b.季節を感じられるレクリエーション

反省⇒制作は月に1度実施した。壁画制作は、協力して制作することで達成感を感じて頂けた。

外でのレクは、公園の散歩・スイカ割りを行った スイカ割りは参加者が多く普段参加されない方の参加もあり、盛り上がった

c.地域活動

反省⇒合同レクはみどりの丘デイサービスと行き、交流ができた

小学校のバザーに、子ども用剣と雑巾を出品した

d.レクリエーション参加人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1回目	ふまねつと	ふまねつと	ふまねつと	ふまねつと	統合	ふまねつと	ふまねつと	ふまねつと	ふまねつと	休	ふまねつと	ふまねつと	0
2回目	15	11	7	12	ふまねつと	15	11	4	18	ふまねつと	16	14	123
3回目	7	11	6	10	8	10	5	13	7	33	6	7	123
4回目	14	11	11	19	23	18	14	17	16	16	19	18	196
5回目		10					13						
合計	36	43	24	41	31	43	43	34	41	49	41	39	465

平均参加者～12.9人 昨年度より1.6人減少

○体操(リハビリ)

- ①西岡病院機能訓練士の下、個別支援リハビリ計画を立て、実践・評価する
- ②日常生活における運動機能の維持・低下防止ができるように、また個々が楽しく習慣化し取り組めるよう様々な運動を提案していく

- a ラジオ体操 毎日10:00～ 必ず参加する入居者も多く、定着している
- b いきいき体操 月～金曜日 11:30～
職員全員が担当として、毎日の体操として定着して来た
- c 体操の日 月1回水曜日 レクリエーションチームと合同でボールなど使用し実践
- d ヨガ 月2回 インストラクターと話し合いながら進めた
- e ふまねっと 施設内;月1回 3か月ごとに曲を変更し簡単なステップで行った
町内会;毎月第3木曜日みどり町内会「ふまねっと教室」
毎月第3水曜日西岡根っ地区センター「ふまねっと教室」
- f 個別リハビリ ケアプランに基づき個別リハ
反省⇒個別支援を意識した体操を提案した。

定着してきた活動や、参加人数が増えた活動が多かった。
ヨガはマンネリ化の防止や、地域への開放など今後の課題
月1回西岡病院機能訓練士の協力のもと、特定対象者に対し、専門的な根拠に基づいた、評価・支援が行えた。(生活機能向上連携加算)

6.介護予防

- ①職員間で意見を出し合い、個々に合わせた内容を考え、楽しく活動していく

反省⇒会議だけでなく、その都度職員間で情報交換や話し合いを行い、活動していただくことができ良かった

○レッツトライ(入居者全般)

- ①参加意欲を高める内容を提供し、脳の活性化を図る

反省⇒出席カードを用意して参加意欲を高めた。回想法の一環として北海道博物館見学を行ったが、後半は震災で閉鎖になり、北海道新聞社に変更した

○アカデミー(認知症対象)

- ①対象者それぞれが継続して参加したいと思えるような内容を提供し、QOLの向上を図る

反省⇒ベア活動を取り入れたり、個々の文字盤を作成してゲーム感覚で楽しんでいたが係担当者とその他の職員で情報交換を行い、活動内容等を都度確認していた
検査検証を実施し、変化や状況を把握できるようにした

○グループアカデミー(アカデミー対象者と疑わしい方が自由参加で)

- ①勉強を通してコミュニケーション力の向上を図る

反省⇒週1回ラジオ体操後に行った
間違い探しやぬり絵・折り紙・トランプなど、行った
楽しみにしている入居者も多く、たのしいでいただけたが、職員が対応する範囲を越え
個々には十分応えられない場面もあった

7.地域(統合ケア)交流

①地域との様々な交流行事や社会参加活動を通じて、地域で暮らしていることが意識でき 楽しくハリのある生活を送れるよう支援する

反省⇒日ハム観戦は希望者が減少、今年度は希望者0で申し込みしなかった

児童館との室内交流(運動会)は参加者が多く楽しまれた

交通安全活動は、レクリエーション行事に参加しな方が多く参加したが、震災により中断
を余儀なくされた。来年度も継続したい。

保育園児との交流(統合ケア)

月日	行事名	内容・反省など	参加者
6月15日	お祭りごっこ	雨天のため、室内で、神輿パフォーマンス	26名
6月22日	緑見会	気温低く、室内で昼食会	24名
3月27日	卒園児出前交流	卒園式の様子再現で、可愛い様子がグッとくる	44名

児童館交流

8月1日	夏の児童館交流	七夕飾り・かき氷	25名
1月16日	冬の児童館交流	室内運動会	33名

小学校との交流

5月	春の交通安全活動	10日・14日・15日下校時の見守り	延べ14名
9月	秋の交通安全活動	3回予定していたが、震災のため中止	
10月	6年生との交流	4クラス、4日間 手作りゲーム、入居者への質問など 小学生企画の行事	

その他

6月3日	たんぽぽコンサート	札幌大学吹奏楽コンサート	4名
11月4日	札幌大学定期演奏会	協賛無料チケット	1名

8. 研修

①施設内研修

研修会の名称	講師・主催委員会など	月日	参加者数
個人情報について	相談員	4月20日	職員15名参加
バイタルリンクの説明	西岡病院相談員	6月22日	職員17名参加
環境整備	事故防止委員会	7月27日	職員17名参加
転倒防止	事故防止委員会	1月25日	職員16名参加
感染予防について	感染予防委員会	11月21日	職員17名参加
ノロウイルス感染対応	感染予防委員会	12月25日	職員17名参加
身体拘束について	身体拘束委員会	9月21日	職員17名参加
スピーチロックを考える	身体拘束委員会	2月19日	職員17名参加

②施設外研修

研修会の名称	主催団体	開催月日	参加職種
ふまねっとインストラクター講習	地域健康作り委員会	4月8日	介護職員
ふまねっとインストラクター講習	地域健康作り委員会	5月20日	介護職員
認知症の理解	介護労働安定センター	6月12日	介護職員
自立支援の在り方	札幌シニア機構	6月12日	介護職員
認知症基礎研修	北海道老施協	6月22日	介護職員
ケアハウス職員基礎研修	全軽協(東京)	7月5日	相談員
施設見学研修(函館)	全軽協北海道ブロック	7月9・10日	介護職員
バリデーション	介護労働安定センター	7月10日	介護職員
地域共生社会の構築を見据えた福祉サービス	札幌シニア機構	7月10日	主任
人が人をケアすること	札幌シニア機構	7月26日	介護職員
ケアハウス研修会	北海道老施協	8月22・23日	看護職員
ケアハウス研修会	北海道老施協	8月22・23日	相談員
虐待・身体拘束	北海道老施協	8月31日	介護職員
現場で役立つ医療知識向上	札幌シニア機構	9月13日	看護職員
全軽協職員研究大会	全軽協北海道ブロック	9月27・28日	看護職員
全軽協職員研究大会	全軽協北海道ブロック	9月27・28日	介護職員
全軽協職員研究大会	全軽協北海道ブロック	9月27・28日	相談員
認知症を考える	医療法人徳洲会	9月28日	介護職員
施設見学研修(滝川・江別)	札幌市老施協	10月5日	介護職員
施設見学研修(滝川・江別)	札幌市老施協	10月5日	介護職員
老施協全国大会	全国老人福祉施設協議会	10月30・31日	介護職員

V職員状況

1. 平成30年度入職・退職者

退職者 0名

入職者 1名 (2月1日入職)

2. 平成30年度末職員数18名

正職員－17名

施設長1名 相談員2名 介護職員11名 看護職員2名 栄養士1名 ケアマネジャー1名(兼)
パート職員－1名(介護職員)

平成30年度 特別養護老人ホームみどりの丘 事業報告

I. 特別養護老人ホーム みどりの丘 年度達成目標結果

1. 利用者へのサービス向上と稼働率向上に取り組む。

○各部署協力して加算等に適切に対応し、利用者へのサービス、稼働率向上に取り組む。

⇒ 各部署協力して、新加算の生活機能向上連携加算、再入所時栄養連携加算を取得、適切に対応し、利用者サービスを行った。また、入所して2ヶ月で退所する、入所のお声掛けしても今はいいと断られる等、退所に入所が追いつかない状況もあり、残念ながら稼働率向上に至らなかった。

2. 利用者、職員の為の業務改善に取り組む。

○各部署は現業務を利用者、職員の為に見直し、業務改善に取り組む。

⇒ 介護職員退職者の発生、欠員補充困難により計画的な人材採用等には至らず。緊急シフトを組んでの介護職員勤務となった為、効果のある業務改善に取り組むことが困難であった。

他部署は、加算取得によるパート看護師の増員に伴う役割分担見直しの業務改善、各マニュアルの見直し作成等、チームで協力し合って業務を遂行することができた。

II. 特別養護老人ホーム みどりの丘 各部門年度達成目標結果、状況報告

【 各部門年度達成目標結果 】

1. 介護部門

(1) 入居者が安心・満足出来るサービスを提供する為、全職員間で協力し合う。

⇒ 介護職員退職者の多数発生により緊急シフトが続き、他職種の協力が不可欠な状況であった。コミュニケーションや報連相を図り、全職員協力しサービスを提供した。

(2) 入居者・職員の状況に合わせ、業務の見直しや改善をしていく。

⇒ 介護職員退職者の発生、欠員補充困難な状態続く。人材採用するも続かず退職したり、通常予定していた勤務に入れられないというのが現状である。今後、再指導等が必要である。緊急シフトが続き、介護職員主体での個別行事や外出の計画・実施が難しい状況。他職種協力の元、レク実施出来る事が多かった。

後期では、比較的職員や業務が落ち着いてきたため、公休内で連休希望をつけ、満足に繋げる取り組みが出来た。

2. 看護部門

(1) 加算に対応できるように他職種と連携を図り、利用者の健康管理を行なう。

⇒ カンファレンスや会議に参加し他職種と情報共有し、利用者の健康管理に努めた。

(2) 質の高い看護が提供できるよう常に業務の見直し改善を行なう。

⇒ パート職員も増員され、チーム内で役割分担を行う等の業務改善に取り組んだ。

3. 生活相談部門

(1) 短期入所定員6.0名以上、入退所期間が30日以内となるよう努める。特養会議にて毎月のショートステイの稼働率等情報を伝達し、共有していく。また、短期入所利用者のケース会議を行い、サービスの向上に取り組む。

⇒ 今年度は入所25名、退所21名(うち看取り7名)対応。入退所期間平均42.7日で満床月なしとの結果となった。短期入所は1日平均5.7名。1月のインフルエンザ流行でのキャンセルや、長期利用者の入所等での枠を埋められなかったことが、稼働率低下の要因と考えられる。

会議等で、稼働状況報告と、入所検討を定期的に行うことで、多職種と情報共有でき、次選考もスムーズに行えている。

(2) 現業務に沿った相談員マニュアルの作成と、新たな地域・広報活動が軌道にのるよう業務分担や業務の見直し等行っていく。

⇒ 一通りの業務を行い、互いの業務を整理、分担し、施設内外の活動を円滑に遂行できている。今後は、稼働率達成目標に向けて、優先して取り組んでいく。

4. 介護支援専門部門

(1) 新入所受け入れの際に他職種と連携し個別の情報（認知症高齢者の日常生活自立度等）を確実に取り、加算の取得を適切に対応する。

⇒ 124 ケースのサービス担当者会議を開催し、7名の看取り介護に関わり、25名の経口維持加算の管理、全入所者の日常生活継続支援加算の管理を適切に実施する事ができた。新入所受け入れ時、多職種に認知症高齢者の自立度を確認してもらい加算の取得に努めた。

(2) 入居者の個性を把握し、みどりの丘での生活の中で楽しみとなることをケアプランに反映する。

⇒ 入居者の楽しみとなる外食やクリスマス会の開催等をケアプランに反映し担当介護職員と連携し実施することができた。

5. 栄養部門

(1) 新たな制度改正を理解し、他職種と連携して新設された加算業務に取り組んでいく。

⇒ 他職種と連携して、入居者の入退院の情報と共に食事形態、摂取状況を把握し、提携病院の協力のもと、新たな制度改正の加算取得に取り組んだ。

(2) 食事提供に対し、季節感を出すと共に、入居者にとって安全な食事を提供していく。

⇒ 春夏秋冬、季節の食材、果物を取り入れ、春は開設記念、夏はふれあい祭り、秋はお好み寿司、冬はクリスマス、お正月料理を味わい、季節を感じて頂いた。また、委託業者を通じ、食材の品質、産地の確認を行い、安全な食事を提供した。

6. 機能訓練部門

(1) 他施設や他職種とも協力して加算等に対応し、利用者にあった機能訓練をおこなっていく。

⇒ 生活機能向上加算について、西岡病院のPTさんと協力しながら評価をおこない、入居者に対して機能が維持できるように機能訓練をおこなえるように努めた。

(2) 業務改善をおこない利用者がより笑顔になれるように効率よく対応していく。また、他職種の業務にも援助していく。

⇒ 多職種と協力しながら、病院受診や送迎、笑顔になれるように外出など援助をしていった。個別機能訓練は、年度初めは評価や記録などに時間を要した。徐々に効率よくおこなえることができた。

【 状況報告 】

1. 年齢別状況

平成31年3月31日現在

	60歳～	70歳～	80歳～	90歳～	100歳～	合計	平均年齢	最高年齢
男性	1人	2人	5人	0人	1人	9人	83歳	103歳
女性	0人	6人	21人	22人	3人	52人	88歳	105歳
合計	1人	8人	26人	22人	4人	61人	87歳	

※61人（内 特例利用 男性0人 女性1人）

2. 入所者要介護度

平成31年3月31日現在

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計 入所者数	平均 要介護度
入所者 数	0人	0人	13人	26人	22人	61人	4.1

3. 入退所状況

(1) 入所元

(単位：人)

	病院	老健	ケアハ ウス	特養	在宅	ショー トステ イ	グルー プホー ム	高齢者 住宅	合計
男 性	0	0	0	0	0	4	0	0	4
女 性	10	5	0	0	3	2	1	0	21
合 計	10	5	0	0	3	6	1	0	25

(2) 退所理由

(単位：人)

	長期入院	死去(看取り)	その他	合 計
男 性	2	2 (1)	0	4 (1)
女 性	5	11 (6)	1	17 (6)
合 計	7	13 (7)	1	21 (7)

4. 入所者ADL状況

在籍者61人 (入院者3人)

平成31年3月31日現在

		自立	一部介助	全介助
食 事	経口	25人	7人	26人
	胃ろう	0人	0人	0人
移 動	車椅子	4人	8人	40人
	歩行器	1人	1人	0人
	歩行	0人	1人	3人
入 浴	一般浴	0人	1人	2人
	リフト浴	0人	15人	28人
	特浴	0人	0人	12人
排 泄 (日 中)	見守り	0人	0人	0人
	トイレ誘導	0人	12人	19人
	オムツ交換	0人	0人	27人
排 泄 (夜 間)	見守り	0人	0人	0人
	トイレ誘導	0人	6人	1人
	オムツ交換	0人	0人	51人

5. 短期入所月別利用者状況

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延人数	184	183	158	202	149	180	190	189	190	161	165	131
1日平均	6.1	5.9	5.2	6.5	4.8	6.0	6.1	6.3	6.1	5.1	5.9	4.2

※平成30年度1日平均短期入所利用者数・・・5.7人

6. 入所待機者状況 (平成31年3月31日現在)

(1) 待機者数 99人 (男性 43人、女性 56人)

(2) 待機場所別

	老 健	療養型	病 院	在 宅	その他
待機者数	32人	1人	35人	19人	12人

(3) ランク別

	Aランク	Bランク	Cランク	Dランク	不 明
待機者数	6人	56人	35人	0人	2人

7. 入所者の健康管理状況

<受診状況>

平成31年3月31日現在

内科	246人	循環器	11人	眼科	4人
整形	14人	脳外科	39人	皮膚科	23人
外科	2人	泌尿器	9人	耳鼻科	3人
神内	19人	歯科	271人	婦人科	3人
精神科	8人	肛門科	4人	延合計	656人

<入退院状況>

	延人数	日数	平均入院日数
内 科	77人	916日	11日
脳 外 科	0人	0日	0日
整形外科	0人	0日	0日
循環器科	0人	0日	0日
泌尿器科	3人	24日	8日
歯 科	0人	0日	0日
精 神 科	0人	0日	0日

8. 入所者機能訓練実施人数

	延べ人数	日 数	平均(1日)
個別訓練	1,191	223	5.3
集団体操	7,828	216	36.2
作業療法 (手作業・塗り絵)	200	37	5.4
(工作)	189	38	5.0
園芸療法	88	11	8.0
音楽療法	880	22	40.0

9. ボランティア活動状況

(1) 登録者数 ⇒ 定期 ~ 30人

随時 ~ 豊平区社協、その他各ボランティア団体、個人ボランティア

(2) 延活動件数 ⇒ 482件

(3) 内容 ⇒ 月行事、クラブ活動、介護補助など

みどりの丘デイサービスセンター

平成30年度事業報告

① 平成30年度 達成目標・結果

- 1、利用者・家族の満足度をワンランクアップ出来るサービス提供を行う
 - ・細かな観察、細やかな対応・家族への報告で家族からは喜ばれている。
 - ・いつもと違う変化には特に気をつけて見るようにし、早めの対応・連絡を通し大事に至らなかったケースが多くあり、家族やホームドクターから感謝されることもあった
 - ・9月に起こった地震では、利用者の安否確認をさせていただき全員無事であることも確認でき家族からは安心していただけた
 - ・マンネリ化していたレクリエーションを利用者の理解度や身体状況に合わせ職員と一緒にできるゲーム等を考えて実施する方向にもっていったがまだ改善が必要
- 2、日常の残業をなくすために業務の見直しを行い、効率よく時間を使える工夫・改善を行う
 - ・別々に迎えに行っていた、要支援・要介護の利用者を9月から一緒に迎えに行けるように調整し実施させることができ、朝の時間に余裕を持たせられた
 - ・記録の仕方を時間をかけて説明しながら変更させることで、勤務時間内に記録をすることが可能になり残業の軽減になっている
 - ・チラシ配布や営業等を行い新規利用者は1年間で13人いたが、それ以上に廃止者が多くいて利用人数に伸び悩んだ

② 各部門達成目標・結果

<介護部門>

- 1、訓練の効果や利用の楽しさを実感することで満足度アップに繋げることができる
 - ・職員と話をするのはかなり満足されることだと思い時間を作り実践できたことは良かった
 - ・レクリエーションに関しマンネリとの声が寄せられ、ゲーム内容をアレンジしてきた一年だったが、利用者の理解力の低下・介助量の増加に伴い、今後の実施に向けて大幅な改善が必要になってきた
- 2、職員一人一人が全体の動きを把握し、効率よく時間を作り出し残業をなくすための行動がとれる
 - ・介護職員だけでは手が回らないところは、多職種にも手伝ってもらい時間内に

記録が終わるようになった

- ・個人で持っている仕事についてはまだ時間内に終わらないことがある為、時間の使い方にはもう少し改善が必要

<看護・機能訓練部門>

- 1、「いつもと違う」を大事にし、変化のある時には連絡を入れ、家族との関りを大切にする
 - ・「いつもと違う」はいつも頭の中に入れて行動することができ、早めに対応・連絡をすることで大事に至らなかったケースが多くあった。少し慎重すぎるかなと思うところもあるが、利用中の安全・家族の安心のため必要と考えている
- 2、加算に意識を向け細かな情報交換が出来るよう、月に一度はナースミーティングの時間を持つ
 - ・調整がつかずできない月もあったが、できる限り時間を作る努力はした。看護職4人のシフトがバラバラで情報共有が上手いいかないこともあったが、方法を見直すことで共有ができるようになった

<生活相談部門>

- 1、利用者・家族の要望、依頼に対して対応ができるよう調整する
 - ・急な曜日変更、増回等の要望には対応できた
 - ・訪問の際に、ご本人・ご家族の話の中から要望を聞き、対応の変更や工夫をスタッフと一緒に調整ができた
- 2、情報の共有がスムーズにできるよう工夫する
 - ・看護師とは12月頃からスムーズにやり取りができるようになったと実感ある
 - ・利用者の日々の細かい変化等の情報がスムーズにいかず、関係機関への連絡が遅れることがあった。

③ 平成30年度月別平均利用者状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
通所介護	17.8	18.3	19.0	18.8	19.3	16.4	19.3	20.1	18.7	16.0	16.3	17.0
介護予防	4.5	4.4	4.0	4.1	3.8	3.1	4.7	4.3	4.2	3.9	3.8	3.5
平均合計	22.3	22.7	23.0	22.9	23.1	19.5	24.0	24.4	22.9	19.9	20.1	20.5

平成30年度一日平均利用人数 22.1人 通所介護 18.1人 介護予防通所介護 4.0人

④ 実施行事

5月 花見ドライブ 6~8月 喫茶・とんでん外出 8月 合同レク 9月 敬老会中止
10月 紅葉ドライブ 12月 年末お楽しみ会
他に保育園や児童会館の子供たちとの交流、中庭散策、日向ぼっこ等を行いました。

リハビリデイサービス ふあいと

平成30年度事業報告

I 平成30年度達成目標について

1. 各種法改正等に対応し、より良いサービス向上と経営安定を目指す。

◇各種法改正等に関してはスムーズに対応できていた。ADL維持等加算については利用者の維持、改善率は適格であったが、全体の介護度が軽介護であったため加算対象とはならなかった。利用者の満足度は自体は高いが、なかなか利用率が上がらず経営としては悪化した。

2. 働き方改革に資する業務見直し・改善を実行する。

◇リハビリでは棒体操や嚥下体操を映像化した。職員への引継ぎや利用者の情報を映像化し共有を図った。記録に関しても、同じ事を何度も記録しないよう、必要のない日誌を止める。ケース会議の回数を減らす。などして業務改善を図った。休暇の取得率では職種による偏りはあるが、全体的に多く休暇を取ることができた。

II 各部門達成目標について

生活相談部門達成目標について

1. 利用者、家族、ケアマネ、多職種からの要望、希望、疑問にすぐに対応、対処する。

◇訪問看護、ケアマネ等、他事業所との連絡機会が増えた。それだけ支援の必要な利用者が増えていると感じる。今後も積極的な関りや情報共有が必要である。

2. 訪問体制の見直し、記録方法の効率化を再検討する。

◇訪問時間は30分を目安におこなった。パソコンの記録には申し送り事項として記入することで、多職員へ情報を伝えた。

機能訓練部門達成目標について

1. 介護保険制度改正等に合わせて、評価や運動種目を見直し、更に活動・参加につながるリハビリサービスを提供する。

◇生活訓練で小集団訓練を試みたが、身体状況の違いなどから固定して行うことはできなかった。一部の利用者は自主的に訓練をおこなうことが出来ていた。

2. リハビリ業務全体を見直し、効率化を図る。

◇集団訓練は嚥下体操を映像化し、作業療法士が不在でも同様の内容で行えた。個別訓練でも個別内容のマニュアル、映像等でリハビリ担当の職員が全員同様のレベルで行えるように取り組んだ。

看護部門達成目標について

1. 観察、情報把握の機会を多くし、利用者の個別のニーズに応えられるようにする。

◇看護師間の情報をミーティングノート等で共有し、多職種からも看護面で個別に対応が必要なものについて情報を得て利用者とは面談し、傾聴及び医療情報提供をおこなった

2. 看護マニュアルを元に業務を進めながら、多職種に移行できる。又は協働できる部分の見直しを行い、業務の効率化を図る。

◇看護マニュアルの基本的業務を整理し、多職種との役割分担を明確にすることができた。看護師全体で業務を理解し記録できるように処置、服薬、パソコン入力の手順書を作成し業務の効率化を図った。

平成30年度 ヘルパーステーションふあいと 事業報告

□平成30年度 ヘルパーステーションふあいと 達成目標

1. 制度改正に適切に対応し、利用者が満足できるサービスを提供する。

制度改正には適切に対応することができた。
例年、実施している満足度調査も概ね高い満足度が得ることができた。
一方で、介護保険におけるヘルパーの役割について理解を得られない場合もあり、そのことにより支援がスムーズにいかないこともしばしばあった。
担当ケアマネの協力も得ながら粘り強く対処したこともあり、現在はほぼ理解を得られている。

2. 働きがい・やりがいを感じられる事業所運営を目指す。

年度途中に家族の都合で登録ヘルパー1名が退職したが、年度内の補充はできず、そのなかでも業務の割り振りで対応した。
日々の業務の中で感謝の言葉をいただく場面も多々あり、職員向けの広報誌などで共有することで、やりがいに結び付けられた。

□研修・会議等

1 研修

- 法人内研修/在宅事業部・・・年2回の研修には登録ヘルパーの参加率が低下してきた。
登録ヘルパーの高齢化で夜間時間帯の出席が難しくなっている
- 事業所内研修の充実・・・研修計画に基づいた研修を、会議ごと実施。
事例検討等を前年度に引き続き実施した。
意見交換等を活発に行う場面が増えた。
- 外部研修～各種外部団体研修・・・常勤ヘルパーが外部研修に参加する機会は業務多忙により確保することが難しかった。

2 会議

職員会議(月1回 第4木曜日)、在宅事業部会議(月1回)、ケース会議(適宜)、サービス担当者会議への出席(サービス提供責任者)

3 その他

- 満足度調査・・・7項目のケア内容に対して、全項目75%以上に満足を頂けた。
また不満足はなく、コメントにも批判・苦情はなし。
サービスの継続により利用者、家族にも誠意が伝わっていると思われる。
- その他 職員健康診断、インフルエンザワクチン接種、介護サービス情報公表制度への対応

□年間利用者数

平成30年度

内訳	訪問介護	1,483回
	総合事業	3,393回

総合事業開始のため事業の閉鎖等の影響にて、新規の問い合わせが増えた。
可能な限り対応している。

■ 平成 30 年度 達成目標について

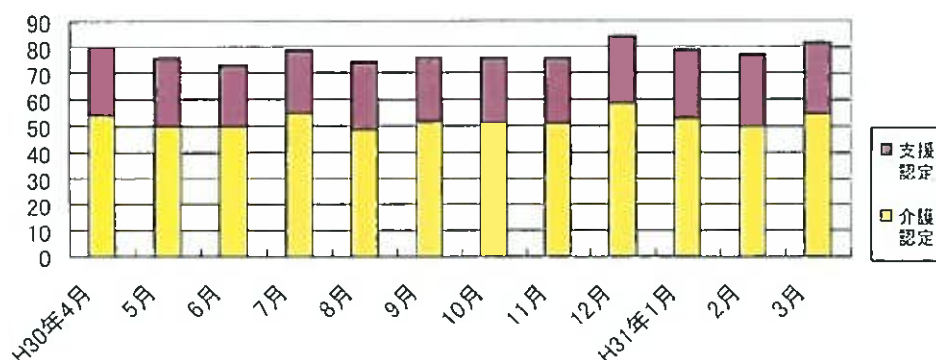
- (1) 介護保険法の改正にスムーズに対応し、意識して加算を取得できるようにする
 - 特定事業所集中減算適用とはならず経過することができた。
 - 医療連携にかかる加算を意識的に算定することができた。
- (2) 地域における事業所の存在感を高められるよう、広報等に努める
 - 地域向けの相談会を開催することができなかった。
 - 担当ケースについては、各事業所や包括等と連携しながら対応することができた。

■ 活動内容・業務実績

- (1) 相談業務
 - ⇒ 訪問・電話連絡の方法を中心に、可能な限り迅速に対応した。
- (2) 居宅サービス計画書（ケアプラン）の作成
 - ⇒ 要支援認定者の予防サービス調整は増加（昨年度 203 件、今年度 303 件）。
 - 一方、要介護認定者の件数は伸びなかった。
- (3) 居宅訪問
 - ⇒ 随時・適宜に訪問を行うようにし、柔軟に対応をした。
- (4) 関係機関との連携
 - ⇒ 各関係機関との連携を図り、都度・適宜の情報交換を行った。
- (5) その他
 - ⇒ 介護支援専門員の現場実習生の受け入れを昨年同様実施した。
 - ⇒ H31 年（R 元年）度より、介護支援専門員 3 名から 2 名体制へと移行することを決断した。

■ 給付管理・ケアマネジメント件数

- ⇒ 年間給付管理数：932 件（内 要介護者：629 件、要支援者：303 件）
 - ⇒ 前年度に比べ「要介護認定者」は減、「要支援認定者」は増の結果となる。
- 《月別給付管理数》 月平均：要介護者 52.4 件、要支援者 25.2 件（下記グラフ参照）



平成30年度 札幌市豊平区介護予防センター西岡 事業報告

■ 平成30年度 達成目標について

1、地域ニーズ、社会的要請に応じた事業展開を計画・実行する

①区・社協・まちづくりセンター・地域包括支援センター・生活支援コーディネーターとの連携をより深め、西岡地区の課題解決に努めることができた。

②モデル事業にて転倒予防教室を開催し、地域の通いの場としても機能できた。

■ 活動実績

(1) 介護予防活動 《すこやか倶楽部（介護予防教室）・転倒予防教室・認知症予防教室》

	開催数	参加者数	活動内容
H30/4月	12回	119名	ふまねっと／折り紙倶楽部／絵手紙倶楽部
5月	11回	564名	ふまねっと／健康セミナー／絵手紙倶楽部
6月	15回	305名	ふまねっと／折り紙倶楽部／歌の会
7月	16回	342名	ふまねっと／ノルディックウォーキング／盆踊り
8月	13回	253名	ふまねっと／姿勢学／折り紙倶楽部
9月	11回	208名	ふまねっと／折り紙倶楽部／
10月	10回	179名	ふまねっと／歌の会／折り紙倶楽部
11月	13回	314名	ふまねっと／転倒予防教室／クリスマスリース作り
12月	12回	246名	ふまねっと／転倒予防教室／こりめ脳活体操
H31/1月	12回	148名	ふまねっと／折り紙倶楽部／転倒予防教室
2月	12回	251名	ふまねっと／転倒予防教室／カーリンコン
3月	11回	235名	ふまねっと／折り紙倶楽部／転倒予防教室
合計	148回	3164名	

(2) 地域支援事業

- 介護者の集い（毎月第2金曜日に開催）
 - ⇒合計78名の介護者が参加
- 老人クラブ（楽寿会・友和会・喜楽会など）への支援
 - ⇒定例会に参加。健康講話や介護予防に関する情報を提供する。
- サロン活動への協力
 - ⇒夢クラブ（ライオンズ町内会）、あえーる（2区中央町内会）、
 - サロンさくら（さくら町内会）、サロン・ド・あかしゃ（あかしゃ町内会）、
 - いきいきクラブ（クローバー町内会）、西岡4丁目健康サロンへの参加・協力。
- 福祉のまち推進センター執行幹事会、西岡音頭普及会
 - ⇒毎月参加。
- 転倒予防教室
 - ⇒モデル事業として開始。地域の通いの場としての機能も発揮した。

(3) 相談対応

- 地域の高齢者からの相談対応（訪問／電話／面接）
 - ⇒合計80件の介護予防等に関する相談に対応する。